

## + 1 (プラスワン)



## 「旅行けば」

牧師 横山順一

俳優の火野正平さんが自転車で視聴者からのリクエストの場所を訪ねて各地を巡る、「こころ旅」という番組を時々見ている。

川上盾牧師が投稿して採用された沖繩行きもあったが、自転車で走れないところや余りにもしんどい山道などはあっさりバスや電車も利用してご愛敬だ。

同じく芸能人たちが〇泊〇日と期限を定めて、その期間内に路線バスで目標地を目指す番組もある。これは路線バスが通っていない地域もあつて、目標達成できない場合もある。

落語家・笑福亭鶴瓶さんとゲストが、全国の家庭をふらつと訪問する番組も人気だ。

それぞれ工夫され、なかなか面白い設定だなんて思っていたら、ふと「旅番組」の多さに気づいた。

普通に電車を利用するものあり、往年の名車(?)ミゼットを駆つて、昭和レトロ風建物を探すものもある。全国的には有名でなくて

も現地ではよく知られている場所を紹介するものもあるし、温泉とかおいしい店とはつきり行き先を限定しているものもある。

ともかく、意外に「旅番組」が多くて、日本人ってそんなに旅好きだったわけ?と首をかしげる。

そうじゃなくて、ちよつと落ち目のタレントを使って、安く作つてる感満載の番組もあるけど、それを言うてはお仕舞いか。

これらの旅番組を見るまでもなく感じるの、どこへ行つても大方似たり寄つたりの町が全国にあふれていることだ。

昔は都会にしかなかったハイカラな店が、今はたいがいどこにでもある。昔ながらの当地の店はつぶれて行つて、全国展開のチェーン店だけが軒を連ねる。

だから初めて訪れた地でも、あれ?ここ見たことあるかも?という既視感覚に襲われる。

どの業種も、二〜三つくらいのものから選ぶだけとなつてないだろうか。

例えば、青山のスーツを着て出勤。途中コーヒースタバで飲んで、昼はセブイレブンの弁当。

帰りにエディオンで電化製品見たあと、イオンの映画館に寄りまして、なんてことが日本中で現実化している。

青山がはるやまになるのが、スタバがドトールになるのが、セブイレブンはファミマで、エディオンがジョーシンでもちつとも変わらないのだ。

「旅」という漢字は、旗の下に人々が並んで隊列を組むこと、軍隊が移動することが字源。

英語の「トラベル」も、もともとはラテン語のトリパリウムⅡ三つの矛を持った拷問具が、フランス語トラヴァイエユ(苦しみ)に転化したのが語源。

どちらも良い意味ではなかった。イエスの宣教の旅も苦しみそのものだったろう。

ただし、やっぱりそこの「出会い」が苦しみを超えて与えられた最大の糧だった。

人との出会い、他者との出会い。そして知らないことの体験。これが「旅」のだいご味。旅というより人生の。

新しい年、どんな旅に出るか。どこにもない出会いに期待する。